

と名く) 雨毎に風を起し其大なる者は恰も猛旋風の如く

旋風起り強雨を降す又電雷之に伴ふ、今春以來所々に龍  
卷起り家を倒し樹を抜く等是れ皆此作用なり、此雲は密  
林の山々に發生すると多ければ能く注意を爲せば其發生  
より膨大する模様は誰人も認め得られん(東海道多雨、靜  
岡縣の荒れ) 低氣壓一過せば一應天氣霽るゝを通常とな  
す本年は陰晴定まらず、其後驟雨的の天氣より大粒の雨  
降り出水多く又雷電落雷多し、是皆此作用なり、

此雲の中心とも云ふ部位の雲は多くは松葇形、海鼠、傘、  
軍帽等となりて多くは靜止す、四方より雲集中す悉く生  
物形なり牛馬の形、海魚、人頭等千態萬狀、或ひは分離  
し又は併合し、分散する等種々變化極りなし、俄に雨降  
り、塵旋風起り又所々に驟雨的雨、出水するも此作用な  
り、此原理其實況は去三月中以後の山口町發刊の長防新  
聞紙上に連載せしか皆注意せざりし、其詳況は目下印刷  
製本中有志に配布せん

(此雲は古來なきものなり、冬季空氣凝結せば減せん)

雜

報

●東京地學協會議員會及例會

客月廿八日西

紺屋町の會館に於て議員會並例會を開き會員北澤正誠氏  
は高岳親王御事蹟に就て陳へ次に岩本千綱氏は東亞三國  
旅行並に高岳親王御遺跡と題して演述せり出席者は北澤  
正誠、花房義質、赤松則良、長岡護美、岸田吟香、鍋島  
直大、松平乘承、神保小虎、關義臣、奈佐忠行、田中阿  
歌賢、島津忠亮、石川貞治の諸氏にして會員の紹介に係  
るもの拾六名なりし

●神保博士歸京

去る七月六日高工學士と共に

東京を出發して清國に赴かれたる神保氏は九月十六日歸  
京せられたり、同氏の巡檢せる地方は寧波港より南に當  
る奉化縣棠溪地方並に象山縣象山地方と楊子江川筋を上  
ぼりて漢口に到る間とす、象山并に奉化の二縣にては巡  
視中多く石英斑岩ありて少々の花崗岩を雜へ楊子江にて  
は陶淵明に縁ある彭澤の縣にて古生層に屬する彼のフズ

明治三十一年十月五日發

リナ石灰岩並に角岩、硅岩を見、漢口製鐵所にては硅岩の露出を見たり此等の硅岩は大に遼東占領地の者に類似し又た製鐵所にて用ふる鐵鑛と共出する者と聞ける石灰岩（楊子江右岸黃石港に近き大冶鐵山の産）は遼東大連灣等の石版石と類似せり

同氏の滯清時日は凡そ壹ヶ月半なれども始終支那人と同行の巡回にて非常なる優遇を蒙り其道具立て盛んにして行列も賑やかに船待ち人待ち等に費したる時間も夥しくして全體の巡視線路並に採集品の分量も想像せし程に達せざりしと云ふ、又た工學士高壯吉氏は少しく後に残りて上海を出發し歸京せりと云ふ

●上海に於ける地理材料

土民の奇風俗等に

注目する人類學の材料を除くの外上海居留地にイギリス皇立アジア協會の支部 (Museum-Road) ありて小き圖書館と博物館あり又た雜誌を刊行せり博物館には動物并に鑛物地質標品等あり礦と地の部は札紙等整頓せざれども台灣の化石并に支那の諸所より採集せし多少の標品は初來の人には示すべし、圖書室には部數多からずと雖も世

界の著名なる地理雜誌を集めたる有様は東京の地學協會に優れり、又た上海より凡そ貳里なる除家滙と曰ふ所にフランス人のヤン教徒が建てたる孤兒院、博物館、氣象台等あり此所の孤兒院に於ける印刷部にて出版する雜誌に Variétés Sinologiques と曰ふ者あり多くの地理材料を含む、博物館にて著るしき物は Heude 氏が研究の材料となりし鹿と野猪の頭骨、ヌッボン、陸介類にして其他種々の動植物と少々の岩石鑛物あり館の大さは上海の博物館より小なれども保存等は優れるが如し又或る種類のみを多く集めたるは寧ろ持性として貴ぶべきことなり

●世界最熱の點

今日世界最熱の個所として知

らるゝは加利福尼亞モハワ沙漠中の死の谷なるか此谷は四方山を環らし出口なく其山の高さも東西北の三方は海拔千五百乃至二千八百米の峻岳にして南方のものゝみ六百米あり而して谷底の高さは晴雨計にての觀測に據れば海面下五十米ありて又其名の起原は嘗て此中にて一隊の移住民水の欠乏に由り死せしにあり今此谷にて或夏季中觀測せし結果によれば七月中の平均温度は攝氏三十九度